

# 幽霊濟度おんらいじど

**鹿** 島郡鉾田町鳥栖の無量壽寺に聖人幽霊濟度の話が残っています。

鎌倉時代のこと、地頭の村田刑部少輔平高時の妻が、難産がもとで、十九歳という若さで死んでしまいました。

ところが、無量壽寺に葬られた妻は、残った幼い我が子のことか心配で成仏できず、夜な夜な墓場から抜け出してくるのです。

そして、一晩中、子供に寄り添い、朝になると、また墓場に戻って行くのでした。

この幽霊の話は、あつという間に村中に

広まり、皆気味悪がって、お寺に参拝する人すら、ほとんどいなくなっていました。

無量壽寺のお坊さんの力でどうすることもできず、

他の手だてもいろいろ試みましたが、高時の妻の幼子への愛着の強さには通じませんでした。

そのうちに、お坊さんも出て行き、寺はどんどんさびれるばかりでした。

高時はじめ村の人々は、困り果て、迷える魂を救おうとして手を尽しましたが、いつこうに収まる気配がありませんでした。

ちょうどその頃、親鸞聖人が弟子を連れて近くを通りかかりました。

この話を聞いた聖人は、寺に行くと、小石一つに一文字ずつ浄土三部妙典二万六千六百十二字を書き、念仏を唱えて霊を慰めました。

すると、その晩から幽霊は出なくなったと言うのです。

となりの東茨城郡小川町にも、同じような、親鸞聖人にまつわる喜八阿弥陀という話が残っています。



萬